子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」

1　はぐルッポ開設の経過

これさえ見れば、子育てに関するすべてのことがわかるという子育ての公式ポータルサイト、ワンストップ型のサイト窓口を、市民と行政との協働で作りたいと考えた。平成２３年の３月末にオープン。名称は「Ｈｕｇする」「育む松本」で**「はぐまつ」**とした。はぐまつが委託されるという形で、不登校の子どもの居場所**子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」**を運営している。

教育委員の頃、不登校や不登校傾向の子どもたちの多さを知った。どうしていいかわからないでいる保護者も多い。その他に登校しても教室に入れず、保健室や相談室にしか行けない子、出席にするためハイタッチだけして帰る子、夕方ちょっとだけ行く子もいる。それを入れたらもっと多い。相談も受けたりしていて、そんな子どもたちの居場所を作りたいと思った。

学校とは違うコンセプトで、保護者が気軽に相談ができ、子どもたちがありのままの自分でいられ、自由に遊んだり、何もしないでいることができることで、自分を取り戻していけるような居場所。そんな場所がほしい。学校以外に子どもが選べる場所があってもいいのではないかと考えた。そして、様々な理由で学校へ行くことができなかったり、登校しても苦しい思いをしている子どもたちの居場所として、また悩みを抱える保護者の相談の場所として、空いている市の教員住宅を借りて、松本市と協働で、子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」を平成２５年５月に開設。今６年目に入っている。最初の３年間は長野県の元気づくり支援金によって運営したが、４年目からは松本市が独自に予算を組んでくれて現在に至っている。

「はぐルッポ」は、学校へ行くことを目的とするのでなく、その子がエネルギーをためて自分を取り戻し、自分で考え自分で決めて歩けるように、子どもたちがその一歩を踏み出すためのエネルギーを育むお手伝いをしている。私たちスタッフが大事にしていることは、指導やコントロールをするのでなく、子どもから必要とされたときにサポートするということ、誰もがありのままの自分でいられて、言いたいことが言え安心して失敗することのできる、そんな環境を子どもと一緒に作っていくことである。

「はぐルッポ」の名前は
～「Ｈｕｇする」「育む」「グループ」～
(「グルッポ」はイタリア語で「グループ」)

2　はぐルッポの活動内容

最初は、週２日午後施設内だけの開設だったが、この６年間の過程の中で、子ども一人ひとりに合った環境をもっと整えたいというスタッフの思いや、子どもや保護者の要望から、活動内容はどんどん変化し、多様な活動を展開するようになっている。

（1）主な活動内容（子どもたち）

ア　通常のはぐルッポ：週２回　水・金曜日、月１回月曜日　午後１時～６時、

はぐルッポには子どもたちが遊ぶことができるように、オセロや、将棋などのボードゲームや、ウノやドブルといったカードゲーム、アイロンビーズやプラバン、スライムなどいろいろな材料を用意している。子どもたちは好きな時間に来て、自由にそれぞれしたいことをして過ごしていく。外に出て鬼ごっこをしたり、川で探検したりもする。最近では家でひきこもっていた中学生が、自転車で来たり、バスや電車に乗って来ることができるようになるなど、その成長には目を見張るものがある。

イ　はぐスタ（勉強する日）：木曜日（月に２～３回）

エネルギーがなく勉強には全然気持ちが向いて射なかった子どもたちも、元気になってくると、遅れている勉強を気にする姿が見え始めた。子どもたちの勉強したいという声から始まった勉強だけをする日。遊ぶ日とは別の曜日に設定。高校へ行きたいと思い始めた中学３年生で、小学校の漢字からやり始めた子もいた。

（勉強する子どもたち）

ウ　はぐスポ（体育館でスポーツ）：毎週金曜日１時～３時

家の中で引きこもっていた子どもたちも元気になってくると狭いはぐルッポの中では物足りなくなってくる。中学生から、バスケがしたい、バドミントンがしたいという声が上がった。

それを受けて松本市の体育館を借りて思いきり身体を動かす「はぐスポ」が始まった。（現在は信大第２体育館）

（バドミントンやバスケットボール）

エ　はぐルッポ旅行：年２回（土曜日）

子どもたちの中には学校の修学旅行にも行ったことがないという子もいて、みんなでどこか行きたいなという子どもの声から、バス旅行を年２回計画。保護者や兄弟姉妹も参加して見学体験も交え、楽しい思い出作りをしている。今までに県内の名所を始め、県外の動物園、水族館、博物館も訪れた。信玄餅のつめ放題や、アイスクリームの食べ放題は大人気だった。

（群馬サファリパーク）

オ　ボルダリング：隔月１回最終金曜日

自己肯定感の低い子どもたちに、自信と達成感を味わってもらいたいと、提案をしたら、子どもたちが飛びついてきた。はじめは怖いと言っていた子も、どんどん難しいレベルに挑戦していき、バランス感覚や集中力が養われている。周りの応援やゴールに届いた時の嬉しさで頑張った達成感を感じている。

（何度も挑戦しレベルを上げていく子どもたち）

カ　はぐ茶：隔月１回最終水曜日

はぐルッポから歩いて１０分くらいの先生のお宅に伺って略式だが茶道の世界を体験する。隔月１回 希望者を募り定員４名で行っている。茶道が楽しくなってもっとやりたいと個人的に習いに行く子も出てきた。はぐルッポで腕前を披露する年に何回かはぐルッポのスタッフや来所者にお茶をふるまう日も設けている。

（ひな祭り茶会）

キ　えがお体験教室：年２～３回

シルバー人材センターから「シルバー人材の会員さんが講師を務めるので体験教室をやらないか」とお誘いがあり、子どもたちの体験の幅を広げる試みとして、希望者を募り、センターの会員さんたちのショップ「えがお」に出かけて行き、ペンダントやストラップを作ったり陶芸を習ったりした。

（子どもの作品）

ク　はぐルッポ卒業式

学校へは行ってなかったので、先生も友だちも知らない、はぐルッポで卒業式したいという子どもの声から、学校や保護者と調整をし、はぐルッポで卒業証書授与式をした。学校からは校長先生、担任の先生も来て、はぐルッポの友達に見守られながらの卒業式。両親も正装して参加。式の後は子どもたちが考えた卒業パーティーも。

ケ　その他、季節の行事など

その他にも、子どもたちの「やりたい」を大切にしている。クリスマス会や、節分の豆まき、七夕会、１学期頑張った会、たこ焼きパーティー・・・など、子どもたちが計画を立てて、スタッフはそのお手伝いをしている。

（クリスマス会での人形劇）

（節分の豆まき）

（ダンスの発表）

(2) 相談

子どもや保護者、支援者からの相談（相談者の都合によって水・金以外も）は大きなウェイトを占めている。はぐルッポではまず保護者が来て、それから子どもを連れてくる場合が多い。

最近では病院からの紹介で相談に来る保護者も増えてきた。

(3) はぐルッポ通信

保護者の方から、はぐルッポへ来て子どもたちは何をしているでしょうと聞かれ、お便りを作って配布しようと考えた。またはぐルッポのことを、学校関係者や行政にもっと知ってもらいたいと、毎月月初めにその月の子どもの活動などを中心に子どもの声も交えて発行している。はぐルッポにとっても貴重な記録となっている。

（はぐルッポ通信）

⑷　スタッフ会議

スタッフが子どもたちの様子や、支援のあり方を共通理解するために、月に１回話し合っている。

通信や行事の内容などもこの会議で決めていく。研修会や講演会などに参加したときには、その内容を発表している。

スタッフの研修として川崎市子ども夢パークにも視察に行ってきた。（30 年 4 月）

⑸　はぐカフェ

（はぐカフェの様子）

来ている子どもたちのほとんどが発達障がいを抱えている。自分たちももっと勉強しなければならないと勉強会を開くことにした。保護者や関心のある人も参加できるように呼びかけをしている。学校で子どもの支援をしている方、教育者、校長先生、発達障害のスペシャリストなど様々な分野の専門家を講師に招いて話を聞きそのあと懇談する。

⑹　畑・おやつ

はぐルッポの庭では畑を作っていて、夏は畑の収穫物がおやつになる。キュウリ、トマト、インゲン、ナス、ネギ、カボチャ・・。スタッフが料理して、時々子どもたちも手伝ってくれて、美味しいおやつがテーブルに並ぶ。昼ご飯を食べてこない子がいたり野菜嫌いの子がいたりするが、この時間だけはお友達と一緒に楽しいおやつの時間になっている。

⑺　子どもの作品の販売

子どもたちの作った帽子やアクセサリー、マスコットなどの作品を毎年フリーマーケットのはぐまつブースで販売をする。帽子を作って出した子は、買ってくれたおばあさんに「また来年も作ってきてね、買いたいから」と言われ大喜び、自信がついた。

⑻　文集「はぐルッポ」

来所している子どもや保護者にはぐルッポに来て感じていることを、任意ですが書いてもらって文集にしている。自分たちの励みにもなっているし反省点も見えてくる。

3　課題

⑴　子どもたちのこと

来ている子どもたちは、不登校の理由も、家庭環境も、抱えているものも、一人ひとりみんな違う。どの子ありのままの自分でいられる居場所として、ここでエネルギーを蓄え、自ら考え一歩を踏み出してほしいと思っているが、元気になってくると学校と同じような排他的なグループ作りやいじめも出てくる。色々な問題に気づき、整理してその思いを受け止めながら安心できる人間関係

を築いていくことはなかなか容易ではない。子どもから学びながらサポートしていきたい。高校進学した後の子どもたちのケアはできていない。また高校で不登校になった子、ドロップアウトしてしまった子についても相談は受けているが受け入れる余裕はない状況にある。

⑵　スタッフのこと

スタッフの安定的な確保ができない。はぐルッポの理念を共有して、子どもたちと接する事の出来る人材の確保が難しいこと、ほとんどボランティア的な待遇しかできないので、常時いてもらえるスタッフの確保が困難であることが主な原因である。信州大学の近くにあって、学生たちも来てくれるが、講義やバイトの都合で不定期であり安定していない。

⑶　関連機関との連携

学校復帰を目的としないはぐルッポに対しては、学校現場からの十分な理解が得られないケースも多い。はぐルッポとしては学校との連携を大切にしたいと考えているが、まだまだ学校側の認知度は低い。保護者の相談も年々増えてきている。子どもの不登校だけではなく、家庭の問題、自分自身の悩みの相談もあり、的確な情報提供や、アドバイス、カウンセリング等のできる専門的なスタッフの確保とともに、必要な場所に繋いでいくためのネットワーク作りも大切である。

学校や病院での支援会議へも呼ばれるようになってきた。

⑷　施設のこと

現在は、木造平屋建ての６帖３部屋で、一部屋を事務室兼相談室にしているため、残りのふた部屋で子どもたちが過ごすのは本当に手狭になってきていて、静かにごろごろしていたい子が来られなくなっている。天気が良ければ近くの川原で遊んだりもできるが雨の日はとても窮屈なことになっていて、できれば広いところに移りたいということで、検討を始めているが進んでいない。

4　外部からの応援・協力

（1）　教育委員会との連携・・・来所日が登校扱いになった
（2）　信州大学、松本大学の学生のボランティア
（3）　タイムカードシステムの導入・・・寄付してもらった
（4）　畑や花壇
（5）　他施設との連携

5　まとめ

時間はかかっても、子どもたちが自分の力で一歩を踏み出していく姿は、何よりの喜びであり、それがスタッフのエネルギーとなっている。最近は、病院から「あそこへ行くと元気が出るよ」などと紹介されて、来所するケースもあってありがたいが、それだけに責任も強く感じさせられている。少しずつ課題解決をすすめながら、大人の都合でなく子どもたちの〝いのち〟を真ん中に置いた活動を、常にぶれることなく貫いてやっていきたい。

子どもの支援・相談スペース
「はぐルッポ」

子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」

◆子育ての公式ポータルサイト**「はぐまつ」**立上げ　H23.3開設
（行政の子育て情報と市民の口コミ情報）

「Ｈｕｇする」「育む松本」　⇒　「はぐまつ」

- 「はぐまつ交流会」
- 「はぐまつミシンカフェ」
- **「子どもの支援・相談スペースはぐルッポ」**H25.5開設

「Ｈｕｇする」「育む」「グループ」

（グルッポはイタリア語でグループ）

2

子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」

◆ 様々な理由で学校へ行くことができない、登校しても苦しい思いをしている子どもたちの居場所、悩みを抱える保護者の相談場所

◆旧教員住宅（築52年）を活用　敷地面積　228.82㎡　延床面積　57.81㎡

週２回 水・金曜日（13時～18時）　月２回 木曜日（15時～17時）

月１回月曜日（13時～18時）　この他相談は随時

◆利用実績（人）

年度	２５	２６	２７	２８	29
延べ利用人員	535	1,080	1,578	1,940	1,676
実利用人数	50	53	62	128	191

◆市予算（委託料）（千円）

年度	２５	２６	２７	２８	２９
予算額	２，３６０	１，９２０	１，９２０	１，９２０	３，２８０
財源	県　1,267 市　1,093	県　597 市　1,323	県　628 市　1,292	市単独	市単独

※初年度は、工事請負費１，１８０千円、備品購入費１３０千円含む

3

子どもの居場所づくり

子どもの自己肯定感の向上

◆　学校・家庭以外の第３の場所（地域）で、多様な価値観で見守られ、励まされること

◆　子どもが安心して、ここならＳＯＳを出しても大丈夫と思えるような、信頼できる大人がいること

市　民　←→　協働・連携　←→　行　政

松本市子どもの権利条例第１０条

市民は地域において子どもの権利を保障していくために必要な支援を受けることができます。

はぐルッポの施設の様子

普段の様子

はぐスタ（月**2**回　木曜日）

はぐスポ（毎週金曜日１３時～１５時）

はぐルッポ旅行

ボルダリング（隔月１回最終金曜日）

はぐ茶（隔月１回最終水曜日）

えがお体験教室（年２～３回）・　はぐジョブ

はぐルッポ卒業式

季節の行事など

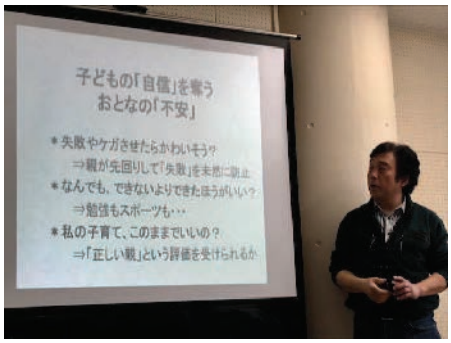
子どもたちの作品の販売　（なでしこマーケット）

はぐルッポ通信

スタッフ会議

研修旅行

祝14周年&来場者100万人突破!


子どもの「自信」を奪う
おとなの「不安」
＊失敗やケガさせたらかわいそう?
⇒親が先回りして「失敗」を未然に防止
＊なんでも、できないよりできたほうがいい?
⇒勉強もスポーツも・・・
＊私の子育て、このままでいいの?
⇒「正しい親」という評価を受けられるか

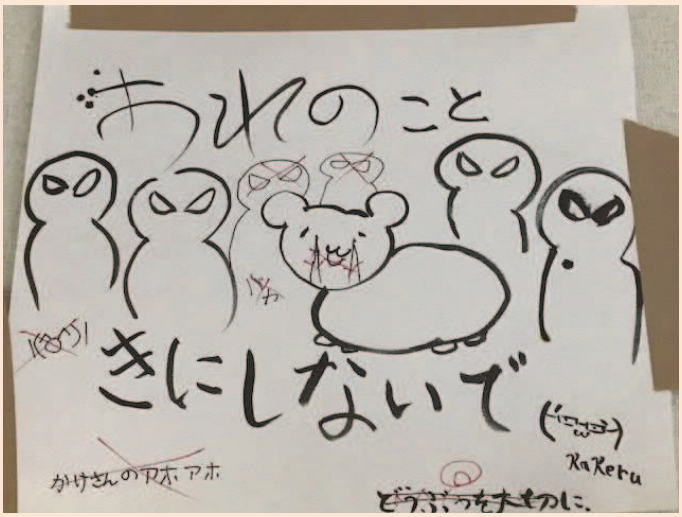
はぐカフェ

はぐルッポ

畑の野菜・おやつ

文集

いろいろな子どもたちのこと



「はぐルッポ」の子どもたち

子どもたちに共通すること

・学校に行かないことに負い目を感じている。

・自己肯定感が低い。
（自分に自信がない）

保護者に共通すること

・子供が学校に行かない＝うちの子はダメな子と考えてしまう。

・自分の育て方が悪いのではと悩む。

子どもは追い詰められ、親は責められている気分になっている。

ありがとうございました

ありのままの自分が大切にされる場所

子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」 西森　尚己

1.「はぐルッポ」の設立

子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」は、さまざまな理由で、学校へ通うことができない子ども、学校へ行っていても苦しい思いをしている子どもに、居場所の提供、相談・学習支援などをしています。また、保護者の相談・支援も行なっています。

不登校、不登校傾向で困っている子どもたちや保護者が多くいることを知って、学校とは違うコンセプトで、子どもたちがありのままの自分でいることができ、自由に遊んだり、何もしないでいることができることで、自分を取り戻していけるような居場所、保護者が気軽に相談ができる場所がほしいと考えました。学校と家の他にそんな隙間のような場所があってもいいのではないかと思ったのです。

そこで、空いていた市の教職員住宅を借り、子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」を、2013年5月に開設しました。6畳の事務室と、続きの6畳2部屋の狭い平屋の一軒家です。

2. ある日のはぐルッポ

1月9日（水）、寒いけれど青空が広がりアルプスの山々がきれいに見えます。

「ウィ～ス」元気よくY君（小5）が、開所時間の13時ぴったりに駆け込んできました。直行で奥の部屋に行くと、こたつにもぐりこみます。彼は学校へ行かなくなってからずっと部屋にこもっていましたが、テレビで「噂の保護者会　学校に行かないという選択」を見て、はぐルッポに来始めました。

30分ほどしてD君（高1）が来ました。彼は中学へは一切行けず中学2年からはぐルッポに来ていました。高校生になっても気持ちが不安定で学校が終わると来ています。Yくんとふたりでこたつでゲームをしたり話したり楽しく過ごしています。

続いて「こんにちわぁ」と、お母さんと一緒にHさん（小4）がぬいぐるみを大事そうに抱えて入ってきました。彼女は小学2年の後半から「学校が怖い」と言って登校できなくなりました。彼女はさっさと奥の部屋に行って、こたつにあたりながら女の子の絵を描き始めました。そのうち押し入れの上段に作った部屋に入りこんで、座布団を何枚も重ねて「眠い～」とごろごろしています。

「チワ～！」っとMさん（中2）が来ました。M「ねぇ聞いてよ。漫画買ったんだよ。自分のお金で。もぉ～めっちゃ萌えるのぉ」、私「見せて見せて」、M「ダメ、先生には刺激が強いから早すぎる」。友だちとうまくいかず、はぐルッポに来始めたときにはどうやったら死ねるかをずっと考えていたのに、今は「高校行きたいから頑張ってみっかなぁ」などと言い始めています。

こんなふうに、子どもたちがばらばらとやって来ます。今日はボルダリングや「はぐスポ（体育館で遊ぶ日）」、「はぐ茶（茶道の日）」はないので、施設内でそれぞれが好きなことをして過ごしています。子どもを送ってきたRさん（小1）のお母さんは、担任の先生がわかってくれないと30分ほど相談していきました。

その後、男子3人は奥の部屋でゲームをしながら攻略法を話して盛り上がっています。ひとりはギターを弾き始めました。女子2人はスタッフ2人とボードゲームをしています。ひとりがウノをやりたいと言い出し、ちょうどボランティアで来た信大生も交えて、スタッフも含め5人でウノが始まりました。ひとりで黙々と数独を解いている子もいれば、本棚に並んでいる「名探偵コナン」の漫画を読んでいる子もいます。

学校帰りのAさん（小2）が来ました。来るとすぐ「ユーチューブで見たボンドスライム作りたい」と

言ってひとりで作り始めました。見ていたRさんが「私も作りたい～」と言うと、「もう始めたからダメ」と言っていましたが、それでもRさんが作り始めるとAさんは「もっとゆっくり入れるんだよ」と世話をやきながら作っています。

こんなふうに子どもたちはやりたいことをしていますが必要な時にはスタッフも呼ばれて一緒に遊びます。

15時半ころになるとみんなでおやつを食べます。ほとんどスタッフが作りますが、時々手伝ってくれる子もいます。庭を畑にして野菜も作っていて、そこで収穫したものも並びます。たいていはお味噌汁とちょっとしたおかずとお菓子。家で食べてないのかと思うほどおかわりする子もいます。みんなと一緒に食べたくないSさん（中1）は事務室で食べています。

おやつの後、子どもたちはまたそれぞれ遊びに戻りました。室内での遊びに飽きた子どもたちの一部は外で遊びたいと、寒いのに女鳥羽川の河川敷へ出ていきます。鬼ごっこをしたり探検したりします。外へ行くときはスタッフが必ずついていきます。Kさん（中2）は部活だけには出ると4時過ぎに学校へ行きました。

17時頃、「こんにちは」とKさん（中3）が来ました。K「バスで来た」、スタッフ　すごいねぇ、よく来たねぇ」。あと1時間で終わりなのに、それでも来たいのだと言ってくれます。

もう外は真っ暗です。18時近くなるとバタバタとみんな帰って行きました。ほとんどの子どもは保護者が迎えに来ますが、M君（高3）は自転車でH君（小3）はおばあちゃんとバスで、D君は電車で帰りました。Aさんはお母さんが迎えに来なくて、電話しても通じず、家が近いのでスタッフが歩いて家まで送りました。

子どもが帰った後、スタッフは今日のそれぞれの子どもの記録をまとめ、19時25分に閉所しました。

3. 子どもの様子　親の様子

このように自分で好きなことをして過ごしている子どもたちですが、来始めたころは多くの子どもが、暗い顔をして笑顔もありませんでした。死ぬからいいと言っている子どもさえいました。

そんな子どもたちが、「何々をします・こうしたほうがいい・これはダメ」というような指導や強制がない環境で、それぞれが自分の好きなことをしているうちに少しずつ変わっていきます。無気力で弱々しく見えた子どもたちが、自分で考えて行動するようになります。そして、まるでエネルギーがチャージされたかのように次第に元気になっていき、これからの自分についても考えることができるようになっていきます。

また、多くの保護者は、子どもに登校を強要してしまったり、自分の育て方がいけないと言われているのではないかと思い悩んだり、不登校の先にはもう道が無いのではと落ち込んだりしています。しかし、保護者が子どもの今の状態を必要な時間だと認めることができるようになると、子どもは変わっていきます。逆に、元気になった子どもの様子を見ることで、保護者もまた変わってきます。どちらにしても保護者自身も変わることが必要だと感じます。

4. まとめ

「はぐルッポ」は学校へ行くことを目的としていません。その子がエネルギーをためて自分を取り戻し、自分で考え自分で決めて、その一歩を踏み出すためのエネルギーを育むお手伝いをしています。そのため、当初はなかなか学校現場には理解してもらえないこともありましたが、現在ははぐルッポは出席扱いになり、子どもの状況を共有できるようになってきました。子どもの様子を教育委員会の不登校対応の先生や学校の先生などが見に来てくれたり、はぐルッポも支援会議に呼んでいただけるようになってきました。高校や中学受験の面接練習も、教育委員会の主事などにお願いしてやってもらいました。また、スタッフ会議には行政から毎回参加してもらっています。

スタッフが大事にしていることは、誰もがありのままの自分でいられて、言いたいことが言え、安心して失敗することのできる、そんな環境を保障すること、そして、指導やコントロールではなく、子どもから必要とされたときにサポートするということ、そういう居場所を子どもたちと一緒に作っていくことです。

「はぐルッポに行くといつも心がほっこりします。もう中学も卒業しますがたまに顔出させてください！」今年の年賀状にある子が書いてくれました。私たちのこころもほっこりしました。何をしようというのでもなく心が「ほっこり」する場所、それがはぐルッポの願いです。

子どもの支援・相談スペース「はぐルッポ」
〒390-0802 松本市旭 3-2-21　Tel 0263-31-3373
松本市役所こども部こども育成課　Tel 0263-32-3261
運営団体：子育てコミュニティサイトプロジェクト「はぐまつ」

子ども

はぐルッポで友達と川で魚をつかまえて遊ぶことが大好きです。
ぼくがはぐルッポへ行くといつも先生達は笑顔で声をかけてくれます。
ぼくは楽しい気持ちになっています。
また行きたいなといつも思っています。

はぐルッポにきてかわった事
ひきこもりがちだったけどここにきてひきこもらなくなりました。
それと、人と話すのがうまくなりました。
友達も出来ました。
すなおに楽しいです!

はじめて、はぐるっぽに行ったときに、自分と同じ子がたくさんいてびっくりしました。わたしは、なかなかはなしかけられなかったけど、たくさんのおともだちがはなしかけてくれたのでうれしかったです。それで、たくさんはぐるっぽにいったらもっとなかよくなれました。
はじめてのときはどきどきしていたけれどいまでは、どきどきじゃなくてたのしいです。いつもはぐるっぽにいくまえは、「まだかなぁ」とおもっています。わたしははぐるっぽにいって少しかわったきがします。
それは、たくさんおしゃべりができるようになっていたからです。学校の先生やお友だちにじぶんのきもちがいえるようになっていたのでしてもらくになりました。それは、はぐるっぽのおかげです。ありがとうございました。はぐるっぽだいすき!

子ども

はぐルッポに、行くようになってからは、
ストレスが、あまりたまらなくなりました。
学校では、友達に気をつかいすぎてて、話すのにつかれたりするけど、はぐルッポでは、気をつかわずに、いられるので、すごく楽しいです。
気をつかわなくて、いいので男の子達と、ロゲニカをよくします。
はぐルッポで、大好きな友達もできて、いつもいっしょに、川に行ったりいっしょに、ねたりします。

私は、はぐルッポに行ってから人と接することが多くなり、友達もできてよくあそぶようになりました。
いままでの私は友達とあそびたくてもなかなかさそったりできずにいましたが、今の私はさそったりできるようになって友達とあそぶことも増え、すごく嬉しいし、楽しいです。
はぐルッポは水曜日と金曜日にあります。今まで水曜日と金曜日には部活の社会体育があり、すごくつかれるので水曜日と金曜日があまり来てほしくありませんでした。でも今は水曜日と金曜日が待ちどうしいです。学校に行けなくなって友達と接するのも苦手になってきた私がはぐルッポに行くようになって接することが苦手じゃなくなって、はぐルッポにいる友達はみんな同じ気持ちだったりしてすごく話が合います。「わかってくれる人がいる」っていうのが一番うれしかったです。バスで行くようになって外にもでるようになったしすごくいい経験になりました！今ではバスにのるのがとってもたのしいです。はぐルッポに行ってほんとうに変りました！
もっと知ってもらいたいです。

はじりまわってあそんだはぐルッポ
くちを言ったはぐルッポ
ルンルン気分のはぐルッポ。
色々つくったはぐルッポ
ポ→ボルタリングなど達成感あったはぐルッポ

保護者

通い始めてしばらくすると、ほとんど話さなくなっていた息子が
はぐるっぽであったことを話してくれるようになりました。
息子は好きな人やものの事は話し出すと止まらないのですが
はぐるっぽの先生の話を楽しそうに話すようになりました。
大声を出したり、暴れたりすることがなくなりました。
ピアノをひいたり、本を読んだり、体を動かしたりするように
なりました。
2年生になり、引きこもっていた頃とは別人のように穏やかに
なり、登校できるようになりました。
2学期はテストも受けるようになり、冬休みの宿題にも手をつけました。
はぐるっぽで先生と過ごし、いろいろな経験をさせていただく中で
自信をとり戻し、前向きになりました。
一年前までは「死ぬ」と毎日のように言ってほとんど寝たきり
でしたが、今はもう言いません。

はぐるっぽでは、学年を越えて話したり、ふざけたり、
ケンカしたり男子ともかかわりをもって過ごせています。
先日、はぐるっぽの前にある女鳥羽川で「私、思わず
叫んだの！」と話していました。心の中のモヤモヤを
一気に開放できたのかなと思います。はぐるっぽの
先生から教えて頂いた編み物は、先日夫にはマフラー、
私には帽子を編んでくれ、とても嬉しく思い、娘にとって、
一つ自信になったと感じています。先生方とは、先生と
児童という関係というより、一人の人間として娘の存在を
認めて下さり、声を掛けて下さっています。あなたには
あなたでいいといられる安心感があり、これから
の人生の中できっと頑張っていける源になると思い
ます。

振り返ると、「学校へ行かない」と決めたことが、事態を大きく好転させているということに気づく。それは本人の休息となるのだが、同時に、それは親が子どもを「無条件に受け入れる」ということを意味している。「学校へ行かない自分を、親が受け入れてくれた」ということを、子ども自身が実感するのである。きっと、それこそが本当に子どもたちに必要なことだったのだろう。だから、２次的に事態が好転したのだと思う。

そしてそれ以前の関りを思うとき、私は偏見や見栄、傲慢さが邪魔をして、条件つきでないと子どもを受け入れていなかったのではないか、と思う。つまり「学校へ行っている子ども」しか受け入れていなかったのだ。
「たとえ、学校へ行っていなくても、勉強ができなくても、ひきこもりになっても・・あなたは私のかけがえのない、大切なたったひとりの子ども」なのである。もし不登校になったとしても、それが不幸なのだろうか。「幸せ」とは他人が決めることではない。他人がたとえ私を母親失格と言ったって、自分がこの子の親であることに幸せを感じていれば、それで良いのである。そして何より、子どもたちが元気で、生きていてくれさえば良いではないか、と思うのだ。

保護者

何よりも良かったのは、はぐルッポに来て、「学校に行ってないのは自分だけじゃないんだ。ここなら、通ってきても大丈夫だ」という「居場所」が出来たことです。今まで家族以外の人にはほとんど会っていなかったので、人に会うこと、人と接することで嫌な思いもいっぱいしたかもしれませんが、ここで出会った先生方や、大学生のボランティアの方、はぐルッポでしか出会うことのなかったであろう友達は、娘にとって、とても大切な人となったと思っています。またここでの経験は、学校生活では味わえない、特別なものとなったと思います。

親の私がびっくりしたのは、クリスマスパーティーでの劇の発表、卒業を祝うパーティーで、ホルンをみんなの前で演奏できたことです。そんなこと出来るとは思っていなかったのですが、練習期間が短かったホルンは、ダメかなぁ～と思っていましたが、こんな頑張れる力があるんだと感じさせられる程、練習していました。人前で何かが出来るという経験もとても貴重なものでした。はぐルッポは、「ここは大丈夫な場所だよ」「あなたはあなたでいいんだよ」とみんなが言ってくれているような所だと思います。娘はもちろんのこと、親も心身ともに救われた年月間でした。

ありがとうございました。

引きこもりをなんとかしたかったところを、はぐルッポのおかげで社会とつながることができ、外出することもできました。

とても感謝しています。娘は毎日はぐルッポがあればいいなと話していました。私も可能ならばあと数日増えて欲しいと感じます。

静と動の活動が組み合わされていて、娘は発散できています。娘の本来の活発さや、明るく元気の良い笑顔が増えてきました。

私の相談も聞いてもらえて、２ヶ月が経過した今、なくてはならない存在です。とてもとてもありがたい居場所ですので、これ以上の要求はないのですが、近くに家族療法的なアプローチをしてもらえる場所や、施設や取り組みがあれば良いなと探しています。

はぐルッポに助けてもらったことはもうひとつありました。

娘と共に苦しんでいた時に、学校から排除されたと感じることがあり、学校と疎遠になっていました。

「学校は勉強するところだから、保健室登校の今のままでは学力の保証はできない」

「保健室は２時間以上いてはいけないから、お迎えの連絡を入れます」

「クラスに来られないのでクラスの係活動（クラス全員が１人一役割り当てられているもの）から、名前を排除する」

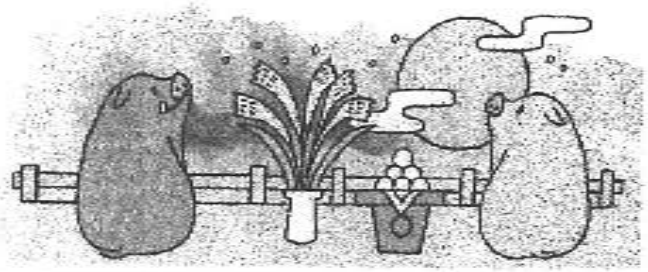
「特別支援の教室に申請をしているが、娘１人増えると、教師の数も増やす必要があり数百万もかかってしまう」

このようなことを信頼していた担任の先生から話がありました。娘は私以上に傷ついていたようでした。

はぐルッポに出会い、話すだけで心が解き放たれました。

朝の欠席連絡方法も含め、どうしたらいいのかを聞くことができ、アドバイスもいただけました。

2019年
9月



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4 はじスポ	5 はじスタ	6	7
8	9	10	11 はじスポ	12	13	14 はじめ小学校行「ろれがとり」
15 敬老の日	16	17	18 はじスポ	19 はじスタ	20	21
22	23 秋分の日	24	25 はじスポ	26 はじスタ	27 はじ茶	28
29	30					

☆【9月第3月曜日】敬老の日・・お年寄りを大切にし、長生きを祝う日

☆【9月23日ごろ】秋分の日・・昼と夜の長さが同じになる日・祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日

☆【9月中旬～10月上旬】十五夜／お月見・・旧の暦によって、8月・9月の満月の夜に月見をするならわし

○印 PM1:00～6:00　はじ茶、茶道を習いに行きます。PM4:00～5:30

2019年
10月

日	月	火	水	木	金	土
		1 衣がえ	2	3 はじスタ	4 はじスポ	5
6	7	8	9	10	11 はじスポ	12
13	14 体育の日	15	16	17 はじスタ	18 はじスポ	19
20	21	22	23	24	25 ボッチャ	26
27	28	29	30	31 はじスタ ハロウィン		

☆【10月第2月曜日】体育の日・・東京オリンピックを記念してもうけられた、スポーツに親しみ健康な体と心をもつ日

☆【10月1日】衣がえ・・季節の変わり目に服をとりかえるならわし

☆【10月31日】ハロウィン・・かぼちゃをくり抜いてちょうちんをかざったり、おもしろい仮装をした子どもたちが家々をまわってお菓子をもらったりするヨーロッパ生まれのお祭り。

はじスポは体育館で遊びます　1:00～3:00

はじスタは免疫力をあげる日です。2:00～5:00

☆ちびっこ遊び場　このカレンダーは、「文字ドリル 漢字」で無料ダウンロードできます。／イラスト自作